

平成24年7月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.23K㎡)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	4,913	8,260	4,160	4,100	△ 7	△ 5
2 千 石	3,332	6,563	3,295	3,268	△ 7	△ 20
3 内 山	4,838	7,028	3,768	3,260	△ 16	△ 24
4 大 和	3,253	6,729	3,379	3,350	△ 8	△ 8
5 上 野	7,336	15,607	7,603	8,004	9	26
6 高 見	6,338	12,445	5,992	6,453	△ 6	△ 8
7 春 岡	6,230	10,131	5,398	4,733	7	11
8 田 代	11,171	21,365	10,265	11,100	△ 8	5
9 東 山	9,627	18,574	9,082	9,492	2	△ 5
10 見 付	4,339	8,225	4,090	4,135	△ 13	△ 19
11 星ヶ丘	3,424	6,697	3,008	3,689	2	13
12 自由ヶ丘	3,240	6,980	3,146	3,834	0	3
13 富士見台	6,431	15,753	7,262	8,491	7	△ 4
14 宮 根	3,703	8,494	4,034	4,460	△ 14	△ 42
15 千代田橋	3,652	8,749	4,085	4,664	△ 4	△ 14
千 種 区 計	81,827	161,600	78,567	83,033	△ 56	△ 91
H23. 7. 1	81,128	160,928	78,336	82,592	△ 30	△ 41
対 前 年 比	699	672	231	441	△ 26	△ 50
名 古 屋 市	1,036,238	2,268,309	1,117,122	1,151,187	321	1,821
愛 知 県 (H24. 6. 1)	2,984,273	7,429,474	3,711,632	3,717,842	3,753	16,967

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	88	104	△ 16	781	856	△ 75

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
昭和50年	168,861	平成 7年	148,847	173,598 (昭和50年2月1日)	
昭和55年	166,837	平成12年	148,537		
昭和60年	163,762	平成17年	153,132	これまでの最少人口	
平成 2年	156,478	平成22年	160,015	146,727 (平成11年4月1日)	

(注意) 世帯数と人口は、平成22年国勢調査結果を基礎として、毎月の住民基本台帳人口と外国人登録人口の異動数を加減しています。

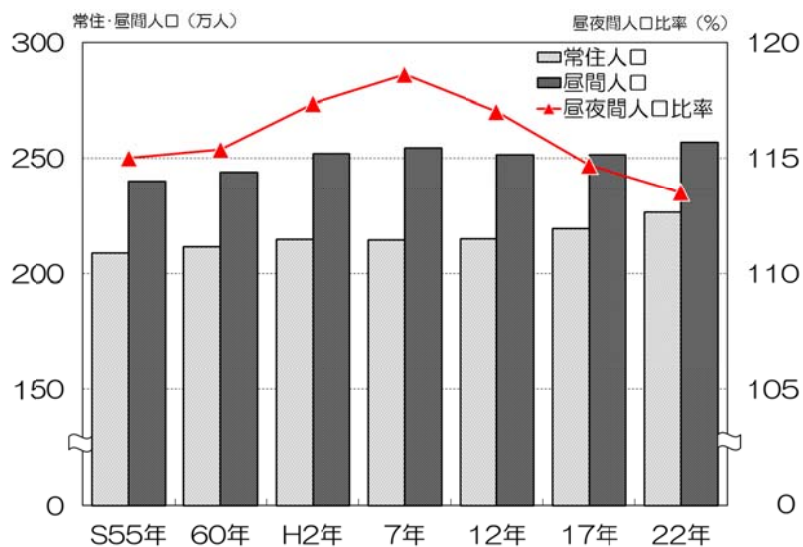
千種区の昼夜間人口の概況(国勢調査結果より)

平成 24 年 7 月 1 日現在の千種区の人口は 91 人減の 161,600 人となっており、世帯数は 56 世帯減の 81,827 世帯となっています。今回は、千種区の昼夜間人口について、国勢調査の結果に基づき名古屋市全体および各区と比較していきます。

昭和 55 年以降の国勢調査結果を見ると、名古屋市の常住人口（常住している人口。「夜間人口」ともいう）は、平成 7 年に若干減少した以外は、一貫して増加を続け、平成 22 年には 2,263,894 人と過去最高となっています。

一方、名古屋市内の昼間人口（常住人口に、通勤・通学のために流入する人口と同じ理由で流出する人口の差を加えた人口）は、平成 7 年までは増加を続けていきましたが、平成 12 年にいったん減少し、平成 17 年以降は回復して平成 22 年には 2,569,376 人となっています。

図 1: 名古屋市の常住人口・昼間人口の推移



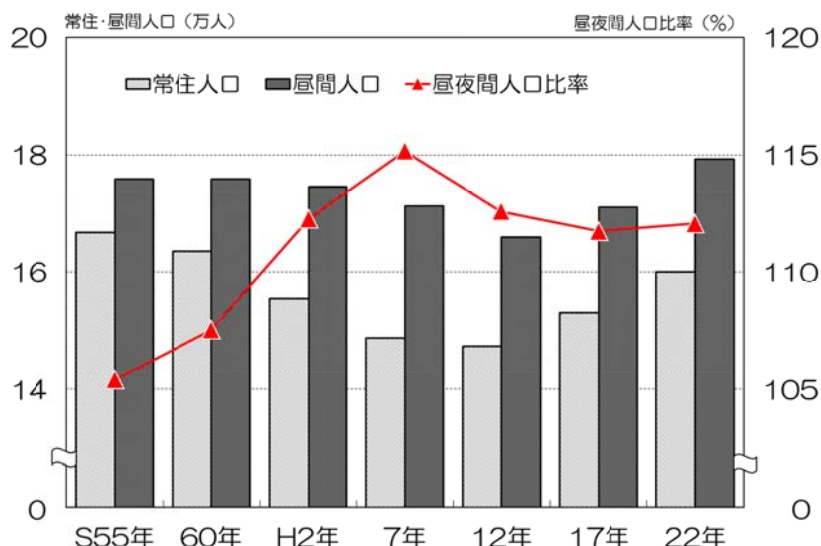
平成 7 年までは増加を続けていきましたが、平成 12 年にいったん減少し、平成 17 年以降は回復して平成 22 年には 2,569,376 人となっています。

平成 17 年と平成 22 年を比べると、昼間人口が増えたものの、それ以上に常住人口が増えたため、常住人口に対する昼間人口の割合（昼夜間人口比率）は、平成 17 年に比べ平成 22 年は減少し、平成 7 年をピークに減少を続けています。

昭和 55 年以降の国勢調査結果を見ると、千種区の常住人口は、平成 12 年の 147,390 人まで減少していましたが、平成 17 年から回復し、平成 22 年には 160,015 人となっています。

千種区の昼間人口も、平成 12 年まで減少を続け 165,941 人となっていましたが、平成 17 年から回復し、平成 22 年には 179,314 人となっています。

図 2: 千種区の常住人口・昼間人口の推移



常住人口に対する昼間人口の割合（昼夜間人口比率）は、平成 7 年をピークにゆるやかに減少を続けています。

他区と比べてみると、昼夜間人口比率は中区が 379.1%と最も高く、中村区 166.2%、東区 162.0%と続き、千種区は 112.1%で 7 位でした。

一方、昼夜間人口比率が最も低かったのは緑区で 80.0%、続いて守山区と名東区が 86.9%となっています。